

2019年1月15日

東京スカイツリー®地域熱供給施設における省エネルギーの取り組みが  
**平成30年度 省エネ大賞を受賞**  
資源エネルギー庁長官賞（共同実施分野）

株式会社東武エネルギーマネジメント

株式会社東武エネルギーマネジメントは、『東京スカイツリー®地域熱供給施設における高効率プランの実現』において、一般財団法人省エネルギーセンターが主催（経済産業省後援）する「平成30年度省エネ大賞」（省エネ事例部門）の「資源エネルギー庁長官賞」（共同実施分野）を受賞しました。

この賞は、株式会社日建設計総合研究所、新菱冷熱工業株式会社と共同での受賞です。

省エネ大賞は、国内の事業者や事業場等において実施した他者の模範となる優れた省エネ取り組みや、省エネルギー性に優れた製品ならびにビジネスモデルを表彰し、わが国全体の省エネ意識の拡大、省エネ製品の普及促進などによる省エネ型社会の構築に寄与することを目的としたものです。

表彰式は2019年1月30日（水）に東京ビックサイトで開催されるENEX2019「第43回地球環境とエネルギーの調和展」で行われます。

当社では今後とも、環境貢献企業として地球温暖化防止をはじめ、持続可能な社会の発展に貢献するよう、省エネ・省CO<sub>2</sub>に積極的に取り組んでまいります。

## 1. 東京スカイツリー®地域熱供給施設について

東京スカイツリー®地域熱供給施設は、東京スカイツリータウン®および周辺建物に冷水および温水を供給する地域冷暖房施設※1です。

## 2. 評価のポイント

施設竣工後の省エネに対するさまざまな取り組みにより継続してエネルギー効率が向上し、2016年度には全国地域冷暖房施設トップクラスの年間一次エネルギーCOP1.35※2（2013年度比4.8%向上）を達成したこと、および、設計コンサルティング会社と環境エンジニアリング会社を交えた設計段階から運用段階まで一貫した効率向上に対する取り組みが評価されました。

2016年度の施設エネルギー消費量は原油換算で2,136kL、これは全国の地域冷暖房施設の平均（COP0.81）と比較して1,425kLの大幅な削減（40%）となります。

※1：地域冷暖房とは、冷水や温水等を一箇所ですべて製造し、供給するシステムです。"まとめて"製造・供給することによって省エネルギーや省CO<sub>2</sub>など様々なメリットを実現します。（一般社団法人日本熱供給事業協会公式サイトより）

※2：COP（Coefficient Of Performance）とは、一般的に冷凍機・ヒートポンプチャラー・ボイラー等の入力エネルギー（電気・ガス等）に対する出力エネルギー（冷水・温水等）の比を表した総合エネルギー効率（成績係数）で、数値が大きいほど高効率であることを示します。ここでは、地域冷暖房施設全体の年間消費一次エネルギーと、お客さまへ供給した年間熱エネルギーの比を表しています。

以上

### <関連情報>

- 平成30年度「省エネ大賞」受賞者の決定について（一般財団法人省エネルギーセンター）  
<https://www.eccj.or.jp/bigaward/winner18/index.html>
- ENEX2019（公式サイト）  
<https://www.low-cf.jp/east/>